

ネパール現地報告 6

メモ

4日の行程

パタン病院、日本大使館、JICA、タメルに両替、空港にて本日到着の檜戸学コーディネーターと合流、今後の方針を話す、NHK井上カメラマンと電話にて、電話インタビューについての打ち合わせ。

5日の行程

有志アメリカからの救援隊と意見交換。

午後ラムジュン病院へ。夕方到着。現地で奉仕中の伊関教授、矢野医師、山本看護師と合流(ちょうど到着時、地震による大腿骨骨折の患者さんを手術中)。3日間の報告を受ける。上記病院が把握するこれまでの、直接的な地震による死者6人。地震による患者さん34人。そのうち9人手術。

6日の行程

ラムジュン病院から車で約1時間、そこから徒歩約1時間半にある、どさんこでも何度も民泊させて頂いたカトリ村のヒクモトさん宅を訪問。家族全員無事。

村の状況

ヒクモトさん宅は倒壊を免れ、何か所かの亀裂で済む。但し余震を恐れ、建設中のヤギ小屋にての寝泊まりが続く(ヤギ小屋は簡易なトタン屋根、比較的安全なため)。

地震のお見舞いと、村の人々の診察を行う。伊関教授、矢野医師、檜戸医師、山本看護師のほか、ヒクモトさん娘で現在ポカラのフィッシュテイル病院ICU勤務のソバさん、ヒクモトさん息子で現在ルンビニ医科大学2年生のゴロブ君も地震のため休暇を取り帰省中、今回の診察にもそれぞれ予診、診察の通訳として手伝ってもらう。

診察時間約4時間半、診察人数261人。

そのうち地震関係約1割、全て軽傷。

今後の活動について

それぞれ震源地に近いラムジュン郡、ゴルカ郡を訪問したが、訪問した場所では大きな被害は見られなかった。被害の程度は場所や村々によってもだいぶ違うようだ。

カトマンズを拠点として車でアクセス可能な地域の情報収集、救援、支援は現在すでに行われている。今後はそこから徒歩でしか行けない村々の情報収集し、それをもとにどのような支援活動を行えるかを検討する。